

平成20年度 山梨県職業能力開発審議会第4回プロジェクト

チーム会議（以下、「PT会議」という。）

議事録

議長：それでは議事に入ります。議題1の「県立職業能力開発施設のあり方検討に向けて」を事務局から説明をお願いします。

事務局説明

議長：いろいろな問題が山積しており、ソフトあるいはハードの見直しの時期に来ていると思われます。皆様方のそれぞれのお立場から、ご意見をいただきたいと思います。

委員：報告書に何度もふれておりますが、ミスマッチがないような教育ができる体制を作ってもらいたいと思います。今回のまとめの方向性で結構だと思いますが、速やかに実施されることを望みます。

事務局：速やかにというご意見をいただきましたが、重要なことですので、このことについてご議論していただきたいと思います。

委員：実際のデータの中にもミスマッチ等が起きています。峡南高等技術専門校の自動車整備科や産業技術短期大学校（以下「産短大」という。）は、出口を十分に確保されている状況にあると思いますが、他の部分につきましては、定員を満たしていても産業界への就職に必ずしもつながっていない状況にあります。例えば、都留高等技術専門校（以下「都留技専」という。）のOAビジネス科については定員は足りていますが、就職を見ても余り見込めない状況にあります。やはり、産業界のニーズが重要となります。

議長：将来、廃止、統合を視野に入れた議論をして良いのでしょうか。あるいは、残すことを前提に議論を進めるべきなのか、如何でしょうか。

事務局：19ページをご覧ください。産業界のニーズを反映すべきであるということですので、存廃を含めた中でのご議論になろうかと思えます。

委員：私の職場は郡内にありますが、7～8年前、都留技専で受講させていただきました。その時受講料はとても安かったのですが、内容につきましてはあまり役に立つものではあ

りませんでした。レベルが低い、学ぶ内容ではなかったということで、そのことだけで判断いたしますと、都留技専の必要性は感じられませんでした。しかし、前回の会議で話しをさせていただきましたが、産短大の分校ということでの再整備であれば、これから人口は減少していきますが、地元から通うのが楽であることから生徒は集まる可能性はあります。産短大の学生は質が高いため、私どもの会社でも採用したいと思っています。したがって、学校としては必要だと思いますが、こちらから遠距離にあるため入学に繋がっていない。また、就職に繋がっていない状況にあります。13ページのアンケート結果がありますが、職業観のない中学生にアンケートをしてもあまり理解していないため、信憑性が薄いと感じました。中学校へはものを作るには設計だけやっている人ばかりではなく、それを作る人もいます。様々な仕事があって企業が成り立っていることを理解させることが重要だと思います。

事務局：都留技専は様々な課題があることでPT会議に取り上げていただいておりますが、より高度な訓練が求められているのであれば、いろいろな観点から検討していく必要があると考えているところであります。17ページにありますアクションプランで、優秀な技術系人材の確保・育成対策を中長期的な視点で展開していくこととしており、職業能力開発に関する4施策を掲げておりますが、ものづくり教育をプランの中で重視しているので、対策検討会議で議論されるのではないかと想定しています。

議長：特色を出して専門性を高めるといったことが必要と思われませんが、ご意見をお願いします。

委員：4ページ、5ページをご覧ください。技術専門職は有効求人倍率が高いが、事務職は非常に低い倍率になっています。やはり、高度な技術・技能を持った人材が必要とされているため、高度化に移行せざるを得ないと思います。雇用能力開発機構ポリテクセンターは引き続き職業訓練の部分は継続していくことになりましたので、それを踏まえた中で検討が必要と思われれます。今まであった施設の方向性を変える場合は、その地域にあった施設の代替が必要ではないかと感じました。

議長：高等技術専門校は、高度な技術を身につけられる場でなければいけないと感じました。また、昔から同じことをするのではなく、時代のニーズに応じた高度なカリキュラムに変えていくことが必要と感じました。

委員：方向性はこの案で良いと思います。ハード面では施設間あるいは工業系高校等との連携や、見直しをしていくことが必要と思います。具体的な内容につきましては、しっかりした方向性が出された中で論議していきたいと思います。地域性というものがありますので施設は必要と思われれますが、中身という点で検討していく必要があると思います。

議長：他にございますか。

委員：この報告書につきましては、報告書の内容で、今後具体的な方策を検討していくということで理解しました。そういう観点から見させていただきますと、事実の分析や論点のあり方とか、かなり力作の報告案であると思います。先程、都留技専は必要がないのではという意見もありましたが、それは現在の教育内容を前提としたらということございまして、中身如何によっては廃止する必要はありません。ソフトとハード両面をにらみながら検討していけば良いかと思います。

議長：今後の進め方を事務局から説明をお願いします。

事務局：委員から方向性は良いのではというご意見をいただきましたが、これからの検討の土台になるものでありまして、ハード、ソフト両面から、しっかりした方向性を求めていきたい。今後は、あり方検討を進めていくこととなります。審議会に提案させていただき、ご了解いただければ、3月末には審議会の提言ということでまとめさせていただきたいと考えております。

議長：ただいまの事務局の意見で進めてもよろしいでしょうか。

委員：了解。

議長：それでは、この会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。このあと審議会を開催しますが、委員の皆様には引き続きよろしく申し上げます。